広島大学総合博物館研究報告 Bulletin of the Hiroshima University Museum 9: 103-119, December 25, 2017

資料 Data

御調八幡宮の絵馬

佐藤大規[1]・中川満帆[2]

The report of the Emas (votive picture) in Mitsugi shrine

Taiki SATO[1] and Maho NAKAGAWA[2]

要旨：今回，筆者らは広島県三原市に所在する御調八幡宮の絵馬を調査する機会を得た。本稿では，昭和戦前（昭和 20 年）までに奉納されたと考えられる 64 面について，画題・奉納年・奉納者・規模などの概要を述べた。作者については，ほとんどの絵馬で詳らかにすることはできなかったが，西村楠亭のように名の知れた画家の作品があること，大阪の絵馬屋で購入したものが含まれることなどが明らかとなった。また額等に残る銘から奉納年が判明しているものが 52 面と約 8 割もあった。これらから奉納の最盛期が明治時代，特に 1880 年から 1900 年の 20 年間であり，1900 年以降は次第に減少していることが判明した。後世の着彩，すなわち修理が行われていることも確認でき，地域として絵馬を保護しようとした姿勢を窺え，64 面という県内では有数な奉納数の多さと考え合わせると地域の民衆の信仰心の厚さを示していると考えられた。

キーワード：絵馬，神社，信仰，広島県

Ⅰ．はじめに

絵馬の奉納は，奈良時代頃から行われてきた風習である。元来は生馬を奉納していたが，次第に馬形や板に馬を描いたものが奉納されるようになったと考えられている。次第にその画題は馬だけではなく多様化を始め，江戸時代には様々な絵馬が制作・奉納された。なかには著名な絵師が筆をとった美術的価値の高いものもある。

広島県三原市に所在する御調八幡宮は，本殿・拝殿・楼門などの壮大な社殿群が残り，さらには重要文化財指定を受けている狛犬や神像など貴重な文化財を多数所蔵する県内有数の社である。

今回，筆者らは御調八幡宮の本殿と神楽殿に安置されている絵馬を調査する機会を得た。本稿では，それらの絵馬の内，昭和戦前（昭和 20 年）までに制作・奉納されたと考えられる 64 面（江戸時代 9 面，明治時代 38 面，大正時代 2 面，昭和戦前 3 面，不明 12 面）[1)]について，画題・奉納年・奉納者・規模などについて報告をした上で，若干の考察を行いたい。

Ⅱ．御調八幡宮の沿革

御調八幡宮の沿革については，桑原（1972）や澤井（1921）に詳しい。ここでは，それらをもとに簡略に記しておく。

御調八幡宮が所蔵する縁起中の「備後八幡大菩薩略縁起」によれば，御調八幡宮は宝亀 8 年（777）に藤原百川が創祀したと伝える。文献上では，それより少し降った延暦 23 年（804）に桓武天皇病気平癒祈祷のために「厳島備後八幡山」に神壇を設けたという記述が最も古いとされる。さらにその後, 保元 3 年（1158）の左弁官宣旨に「御調別宮」，元暦 2 年（1185）の源頼朝下文に「御調別官」という記述がある。その後，戦国大名の毛利氏によって庇護されていたが，関ヶ原合戦後にこの地を領有した福島氏が社領を没収したため衰微したと言う。福島氏の改易後に浅野氏によって再興され，現在の社殿のほとんどが浅野時代に再建されたものである。明治維新後は，明治 4 年（1871）に村社, 次いで大正 9 年（1920）には県社に列せられた。現在は，本殿・幣殿・拝殿・楼門・神楽殿など主要な社殿のほか，若宮八幡宮本殿など摂社も残り，壮大な社殿群を有している。また重要文化財の狛犬や神像な

1 広島大学総合博物館；Hiroshima University Museum
2 九州大学大学院人文科学府大学院生；Graduate student, Graduate school of Humanities, Kyushu University

ど多くの文化財を所蔵している。

次に絵馬が安置されている本殿と神楽殿について記しておく。本殿は澤井（1921）所収の棟札写によると寛政10年（1798）の造立である。虹梁の絵様や各部の風食は18世紀末期から19世紀初期を示していると考えられるので，寛政10年としてよいであろう。この本殿は五間社の入母屋造で，内部は正面3間に側面2間の内陣を設け，その四周を外陣とする。内外陣とも円柱としており，巨大かつ格式の高い本殿である。次に神楽殿は，澤井（1921）には，根拠を示していないものの，嘉永6年（1853）の造立と記されている。虹梁の絵様や各部の風食から19世紀中期頃と考えられ，嘉永6年としてよいと考えられる。この神楽殿は正面5間に側面3間であり，内部の中央に4本の柱を立てる。神楽殿は，角柱を用いるのが一般的であるが，この神楽殿はすべて円柱であり，格式が高い。

Ⅲ．調査絵馬の概要

ここでは，御調八幡宮が所蔵する絵馬の内，調査を実施した昭和戦前（昭和20年）以前に奉納された64面について，その画題や奉納年・奉納者・規模等の概要を述べる。なお，奉納年の古いものから順に並べた。寸法は縦×横で，単位はセンチメートルである。また画面内や額の銘は，可能な限り確認をしたが，神楽殿に懸けられているものの背面は未確認である。

1. 桃園の契り図　寛政12年（1800）7月　166.1×82.7㎝

中国三国時代の蜀漢の武将である劉備・関羽・張飛が，桃園において義兄弟の契りを結んだ場面を描く。画面中央左寄りに「□桂倆人寫」の落款と印がある。額左に「寛政十二歳次庚申秋七月吉祥日　願主田中満貞肅拝」とあり，寛政12年に田中満貞が奉納したことがわかる。現在，御調八幡宮において確認できる最も古い絵馬である。なお，作者の□桂倆人については不詳であるが，奉納者の田中氏は，澤井（1921）によると御調八幡宮が所在する宮内村（現，三原市八幡町宮内）の割庄屋を務めた家柄であり，満貞はその一族と考えられる

2. 伯顔図　享和3年（1803）1月　167.6 × 90.5㎝

元の武将でフビライに仕えた伯顔（バヤン）を描いたもので，伯顔が詠んだ「過梅嶺岡留題」を題材としていると考えられる。額右に「享和三癸亥年」，額左に「正月吉祥日　得能氏」とあり，得能氏が享和3年に奉納したことがわかる。御調郡誌編纂部編（1925）によれば，明治維新時の庄屋の項に「津蟹村 得能準四郎」とある。奉納者の得能氏はその祖先と推測され，田中氏同様にこの地域の有力者であったと考えられる。

3. 競馬図　文化元年（1804）9月　132.5 × 212.8㎝

2頭の馬を競わせる様子を描く。画面右下に「平安楠亭寫」の落款と印がある。また額右に「文化紀元龍次甲子秋九月吉祥日」，額左に「願主十箇村産子中」とあり，作者が西村楠亭（安永4－天保5，円山応挙の門人）であること，文化元年に御調八幡宮の氏子が奉納したことがわかる。132.5 × 212.8㎝と御調八幡宮において現状では一番大きな絵馬である。なお，「十箇村」は『芸藩通志』によれば，宮内・本庄・美生・野串・屋中・福井・簿・津蟹・垣内の10ヵ村である。またこれらを八幡庄と称していた。

4. 関羽図　文化15年（1818）4月　123.7 × 211.8㎝

中国の三国時代に活躍した武将の関羽が赤兎馬に跨がり，青竜刀で曹操より贈られた直垂を受け取る場面を描く。画面右下に「采真堂圖」の落款と印があるがこの人物については詳らかでない。額右に「文化十五年戊寅夏四月吉祥日」，額左に「願主十箇村産子中」とあり，NO.3と同様に御調八幡宮が存する宮内村など近隣の10の村々で構成された八幡庄の氏子が文化15年に奉納したことがわかる。

5. 西王母図　文政11年（1828）1月　161.6 × 81㎝

中国の仙女とされる西王母を描く。画面左上に「東部狩野養川院惟信門人　宗眞斎信廣寫」の落款と印がある。また額右に「旹文政十一年歳次戊子正月吉祥日」，額左「奉獻珍廣前　田中満之拝誓首」とあり，作者が宗眞斎信廣であること，文政11年に田中満之が奉納したことがわかる。なお，奉納者の田中満之はNO.1の田中満貞と同族と考えられる。

6. 鬼子母神図（仮題）　文政11年（1828）131.4×65㎝

剥落が激しいが，赤子を抱く女性を描く。鬼子母神図と推測される。画面右に「黄渓寫」の落款と印がある。また額右に「文政拾一戊子歳孟夏」，額左に「津蟹邑　亀助　作次　芳蔵　倉次　京蔵　麻蔵　吟蔵」とあり，作者が黄渓であること，文政11年に津蟹村（現，御調町津蟹）の亀助らが奉納したことがわかる。

7. 山姥と金太郎図　天保14年（1843）4月　161×81㎝

山姥と金太郎を描く。画面左上に「節島」の落款と印がある。また額左に「天保十四年歳□癸卯四月吉旦田中保右衛門満之室琴息和十郎」とあることから，作者が節島であること，天保14年に田中満之らが奉納したことがわかる。奉納者の田中満之は，NO.5と同一人物であろう。

8. 奉納額（実物欠失）　天保14年（1843）49.8×78.2㎝

画面内に墨書で「鹿　一對」とあること，板にはこの墨書銘を挟むように穴が空いており，今は失われて

いるが，鹿の角を留めて奉納したものと推測される。山口県教育委員会文化課編（1986）によれば菅原神社（勝山）など鹿の角を額面に留めて奉納した事例は少なくない。額にある銘から，福井村（現，尾道市御調町福井）の唯介が天保 14 年に奉納したことがわかる。

9. 武者闘争図　安政 7 年（1860）　117 × 192.1㎝

2 人の武者が闘う様子を描く。一方が騎乗し，もう一方がその手綱を掴んでいる。画面右にある銘から，安政 7 年に御調郡の猪八郎ら 10 名が奉納したことがわかる。

10. 心に錠図　明治 4 年（1871）　58.5 × 78.8㎝

画面中央に錠前を付した「心」という字を描き，その周囲に七つの場面を描く。それぞれの場面には，説明書きが添えられていたようだが大部分が剥落しており，その内容は判然としない。岩井宏実（1974）によれば，このように「心」という字に錠前をかけた絵馬を「心に錠図絵馬」と呼んだと言う。額に残る銘から本庄村（現，三原市八幡町本庄）のきく□ら 8 名が明治 4 年に奉納したことがわかる。御調八幡宮において女性が奉納者の筆頭となる初例である。

11. 武者闘争図　明治 5 年（1872）3 月　132.8×194.8㎝

騎乗の武者が奮闘する様子を描く。額の銘より，明治 5 年に本庄村の俊平ら 17 名が奉納したことがわかる。

12. 芝居図　明治 5 年（1872）　73.8 × 98㎝

題材や場面などは不詳であるが，芝居の一場面を描いていると考えられる。額の銘より，福井村（現，御調町福井）の嘉太郎ら 9 名が明治 5 年に奉納したことがわかる。

13. 熊谷直実と平敦盛図

明治 7 年（1874）3 月　126.2 × 204㎝

一ノ谷の合戦における熊谷直実と平敦盛を描く。絵馬によく用いられた画題で事例は少なくないが，御調八幡宮においてはこの 1 面しかない。額の銘から，福井村の高橋助□郎と津蟹村の植田久治郎ら 15 名が明治 7 年に奉納したことがわかる。

14. 太閤記図　明治 10 年（1877）4 月　135.7×198.5㎝

『太閤記』を題材としたもので，中央に豊臣秀吉，左右に 2 人の武者を描く。『太閤記』を題材とした絵馬は事例が多く，御調八幡宮においても本絵馬と同様の場面を描いた NO.18・19 がある。また NO.28・30・35 は場面は異なるが，『太閤記』を題材としたものと考えられる。額の銘より明治 10 年に本庄村の河井信太郎ら 20 名が奉納したことがわかる。

15.「伽羅先代萩」芝居図

明治 11 年（1878）　78.7×134㎝

伊達騒動を題材とした歌舞伎の演目「伽羅先代萩」の「床下の場」場面を描く。額の銘から宮内村（現，八幡町宮内）の市川志馬之助ら 2 名と野串村（現，八幡町野串）の檜山常太郎ら 3 名が明治 11 年に共同で奉納したことがわかる。

16. 楠木正成・正行訣別図

明治 13 年（1880）4 月　139.4 × 200.4㎝

楠木正成・正行父子の訣別の場面を題材としたもので，絵馬の画題として事例が少なくない。御調八幡宮においてもこのほかに，NO.20・46・63 がある。ただし，描写は一様でなく，本絵馬のように父子のほかに家臣を描くものと父子のみを描くものなど様々である。画中左下に「御堂筋□□町□□長□市□写」と記されていることから，大阪の住「長□市□」が作者と考えられる。額の銘から，坂井原村（現，三原市久井町坂井原）の中曽貞一ら 8 名と世羅郡の向井小二郎が明治 13 年に奉納したことがわかる。

17. 芝居図　明治 13 年（1880）4 月　74.3 × 98㎝

題材は不明であるが，芝居の一場面を描く。額の銘から，福井村の西門田文助ら 2 名が明治 13 年に奉納したことがわかる。なお，額上部分はほかより新しく，後補材と考えられる。

18. 太閤記図　明治 14 年（1881）3 月　142.7×194㎝

『太閤記』を題材としたもので，中央に豊臣秀吉，向かって左側に加藤清正を描く。NO.14・19 と同様の場面を描く。額の銘から坂井原村の入浦本四郎ら 12 名が明治 14 年に奉納したことがわかる。

19. 太閤記図　明治 15 年（1882）4 月　116.7×186㎝

『太閤記』を題材としたもので，NO.14・18 と同様の場面を描く。額の銘から植野村（現，尾道市御調町植野）の池田□太郎ら 13 名が明治 15 年に奉納したことがわかる。

20. 楠木正成・正行訣別図

明治 15 年（1882）4 月　94.3 × 131.5㎝

楠木正成・正行父子の訣別の場面を描く。同様の場面を描いたものとして，NO.16・46・63 があるが，本絵馬は正成が騎乗している点がほかと異なる。額の銘から，明治 15 年に津蟹村の村人が奉納したことがわかる。画面右下に奉納者名と思われるものがあるが判読できない。

21.「一谷嫩軍記」芝居図

明治 15 年（1882）4 月　72.2 × 97.5㎝

源平合戦を題材とした歌舞伎の演目「一谷嫩軍記」の「熊谷陣屋」場面を描く。額の銘から明治 15 年に本庄村の河野調平ら 2 名が奉納したことがわかる。

22. 巴御前図　明治 15 年（1882）5 月　63.2 × 82.4㎝

源平合戦で活躍する巴御前を描く。額右および背面

の銘から，明治 15 年に沢井洵が大阪で購入したものを奉納したことがわかる。

23. 神功皇后・武内宿禰図

明治 21 年（1888）4 月　59 × 81㎝

NO.33・37・43・51 と同様に神功皇后と武内宿禰を題材とする。なお，NO.33 は合戦の様子を描いたもので，神功皇后を題材としながらも内容は異なっている。額の銘から明治 21 年に垣内村の仁口□□と簗村の沖コメら 3 名が奉納したことがわかる。

24. 芝居図　明治 22 年（1889）3 月　65.7 × 126.8㎝

題材は不詳であるが，芝居の一場面を描く。額の銘から野串村の阿賀善吉ら 4 名が明治 22 年に奉納したことがわかる。

25. 梶原景季奮戦図

3 月（明治 22 年 3 月以前）　68.2 × 127.1㎝

一ノ谷合戦において源氏方の武将梶原景季が奮戦する様子を描く。画面中央の箙に梅を挿しているのが景季である。画中および額の銘から野串村の□尻石太郎ら 5 名が奉納したことがわかる。額左の奉納年銘は「三月」しか判読できず元号は不明であるが，野串村は明治 22 年（1889）4 月 1 日に市制町村制が施行されたことにより，宮内村などとともに八幡村に編入されている。したがって，野串村と記された本絵馬は遅くとも明治 22 年 3 月までに奉納されたと考えられる。

26. 川中島合戦図

不明（明治 22 年 3 月以前）　69.8 × 126.3㎝

川中島合戦における武田信玄と上杉謙信の一騎打ちの様子を描く。額左の銘から，野串村の東宇太郎ら 2 名が奉納したことがわかる。なお，奉納年は不明であるが，NO.25 同様に野串村と記されていることから，遅くとも明治 22 年 3 月までに奉納されたと考えられる。

27. 富士に桜図（仮題）

明治 23 年（1890）　72.4 × 104.2㎝

富士と桜を描き，その上に布で作成した人物を貼り付けていた。しかし人物がはがれ落ちているため，どのような場面を題材としているのかは定かでない。額の銘から明治 23 年に坂井原村の平房吉ら 9 名が奉納したことがわかる。なお，御調郡誌編纂部編（1925）によれば，平房吉は坂井原村の村長を勤めた人物である。また本絵馬のように布を貼り付けたものは本絵馬を含めて 6 面あるが，本絵馬が最も古く，唯一男性が奉納したものである。

28. 太閤記図　明治 23 年（1890）4 月　118.5 × 190.5㎝

『太閤記』の一場面を描く。画面左端の騎乗した人物が秀吉であろう。額の銘より明治 23 年に八幡村（現，三原市八幡町）の瀬□□郎ら 8 名が奉納したことがわかる。

29. 風景画　明治 25 年（1892）　47.7 × 67.6㎝

風景を描いたガラス絵である。額や画面内に銘はないが，額右に打ち付けた板に奉納者等を記す。それによれば，本絵馬は明治 25 年に八幡村の稲井熊太郎ら 3 名が奉納したことがわかる。御調八幡宮に奉納されたガラス絵の絵馬は本絵馬を含めて 8 面あるが，そのなかで最も奉納年が古い。

30.「山崎合戦」太閤記図

明治 25 年（1892）3 月　89.3 × 187.3㎝

『太閤記』の一場面「山崎合戦」を描く。額の銘によれば八幡村の安藤山平ら 5 名と山中村（現, 三原市）の門田卯七が明治 25 年に奉納したことがわかる。

31. 奉納額（実物欠失）

明治 25 年（1892）7 月　44.2× 39.4㎝

現状では画面内に何もなく，かつ絵が剥落した痕跡もない。画面中央上よりに釘，下部に抉りが入った板があることから，何らかのものを嵌めていたと推測される。鹿の角を奉納したと考えられる NO.8 と同様に絵ではなく，実物を嵌めて奉納したものであろう。額の銘から明治 25 年に今津野村（現，尾道市御調町）の村人が奉納したことがわかる。奉納者名は不明である。

32.「富士巻き狩り」曽我物語図

明治 26 年（1893）4 月　113.6 × 206.1㎝

『曽我物語』における「富士の巻き狩り」場面を描く。画面右側に源頼朝，左側にイノシシに跨がる仁田四郎を配す。額左に印が二つあり，「應需」・「大坂御堂筋本町□南入稲垣魁春堂」とあることから，大阪の稲垣魁春堂が奉納者の求めに応じて作成したと考えられる。額の銘から加藤喜輔ら 25 名が明治 26 年に奉納したことがわかる。なお，稲垣魁春堂が人名なのか店名なのかは不明である。

33. 神功皇后・武内宿禰図

明治 27 年（1894）3 月　77.5 × 129㎝

神功皇后と武内宿禰を描く。神功皇后と武内宿禰を題材としたものには，NO.23・37・43・51 があるが，いずれも神功皇后と武内宿禰が向かい合ったものである。それに対して本絵馬は戦闘中の様子を描いている。画面右端に指揮をとる神功皇后，中央に馬上で奮戦する武内宿禰を描く。額の銘から八幡村字簗（現，八幡町簗）の□□□郎ら 3 名が明治 27 年に奉納したことがわかる。

34. 風景図　明治 27 年（1894）4 月　73.6 × 105㎝

風景を描いたガラス絵である。額左の銘から明治 27 年に奉納されたことがわかるが，奉納者名は不明

である。

35. 太閤記図　明治 28 年（1895）3 月　96.7×158.6㎝

『太閤記』の一場面で，加藤清正らが奮闘する様子を描いたものと考えられる。額の銘から明治 28 年に坂井原村の岡田尚平ら 10 名が奉納したことがわかる。

36. 加藤清正図　明治 29 年（1896）4 月　40.5×52.8㎝

騎乗する武者を描く。兜の形状や家紋から加藤清正と考えられる。額の銘から明治 29 年に八幡村字宮内の時守トキら女性 2 人によって奉納されたことがわかる。

37. 神功皇后・武内宿禰図

明治 29 年（1896）4 月　74.4 × 100.1㎝

神功皇后と武内宿禰を描く。絵馬の画題として事例が少なくなく，御調八幡宮においても NO.23・37・43・51 がある。額の銘から八幡村字本庄の河□□□ら 4 名が明治 29 年に奉納したことがわかる。

38. 日清戦争図　明治 30 年（1897）3 月　70.5×97.5㎝

日清戦争における戦闘の様子を描いている。画面右端に画題が記されているが，剥落が激しく判読は困難である。ただし山口県教育委員会文化課編（1986）に同様の構図の絵馬が掲載されており，その画面右側の文字は,「征清軍□平壌城□□図」と報告されている。したがって本絵馬も同様の場面を題材としていると考えられる。額の銘から八幡村字簑の積善小助ら 2 名が明治 30 年に奉納したことがわかる。

39. 神社境内図　明治 33 年（1900）3 月　60×85.3㎝

神社の境内とその門前を描いたガラス絵である。額上に張り付けた板に奉納年・者を記す。それによると，御調郡の平川市平ら 3 名が明治 33 年に奉納したことがわかる。

40. 不明　明治 35 年（1902）　60 × 85㎝

わずかに残る破片からガラス絵と考えられる。額下に取り付けられた板に奉納年・者を記す。それによると，明治 35 年に八幡村の西田愛三郎ら 6 名が奉納したことがわかる。

41. 不明　明治 37 年（1904）11 月　40 × 47.2㎝

画面が欠失しており，画題は不明である。額の銘より，明治 37 年に大日本農商務省所官製鐵所溶鉱炉の職工長免田藤四郎ら 2 名が奉納したことがわかる。御調八幡宮において奉納者に企業名が確認できる唯一の事例である。なお大日本農商務省所官製鐵所は，八幡製鉄所の前身である。

42. 巡洋艦「千代田」乗組員（写真）

明治 38 年（1905）12 月　44.5 × 51㎝

日本帝国海軍の防護巡洋艦「千代田」の乗組員の記念写真を貼り付けたものである。額の銘から，佐伯忠一（海軍水兵）が日露戦争終結後の明治 38 年 12 月に奉納したことがわかる。なお「千代田」は日本海海戦などに参加した艦であり，佐伯はその乗組員であったと考えられる。

43. 神功皇后・武内宿禰図

明治 39 年（1906）4 月　66.7 × 97㎝

NO.23・33・37・51 と同様に神功皇后と武内宿禰を題材とする。紙に背景等を描き，その上に布で作成した人物を貼り付けたものである。額の銘から，八幡村字垣内（現，八幡町垣内）の末廣佐々野が明治 39 年に奉納したことがわかる。末廣は，額右の銘によれば三原裁縫教授所の生徒であり，自ら制作したものを奉納したと考えられる。

44. 昭憲皇太后図

明治 40 年（1907）3 月　55.9 × 77.2㎝

明治天皇の皇后，昭憲皇太后を題材としたものである。昭憲皇太后は，日本赤十字社の発展に貢献するなど，慈善事業に大変熱心であったと言う。紙に背景等を描き，その上に布で作成した人物等を貼り付けたものである。額の銘から坂井原村の下寺カズヨら 5 名が明治 40 年に奉納したことがわかる。下寺らは額右の銘によれば「坂井原村裁縫生」であり，自ら作成したものを奉納したと考えられる。

45. 児島高徳図　明治 42 年（1909）2 月　53.7×70.7㎝

南北朝時代の武将，児島高徳が桜の木を削って文字を書き，後醍醐天皇への忠誠を伝えた場面を題材とする。額の銘から八幡村の市川イチが明治 42 年に奉納したことがわかる。紙に背景を描き，その上に布で作成した人物等を貼り付けている。

46. 楠木正成・正行訣別図　明治年間　54.6×78.1㎝

楠木正成・正行父子の訣別の場面を描いたもので，同様の画題には，NO.16・20・63 がある。額の銘から津蟹村の村人が明治年間に奉納したことがわかるが，年月や奉納者名は不明である。

47. 遠州浜松図　明治年間　73.3 × 103.5㎝

遠江国（現，静岡県）浜松の風景を描いたガラス絵である。額の銘から坂井原村の村人が明治年間に奉納したことがわかるが，年月や奉納者は不明である。

48. 風景画　大正 2 年（1913）5 月　68.5 × 98㎝

風景を描いたものである。額の銘から大正 2 年に八幡村の迫庄一ら 5 名が奉納したことがわかる。

49. キラウエア火山噴火図

大正 14 年（1925）4 月　84.5 × 115.5㎝

ハワイにあるキラウエア火山の噴火を描く。額の銘から作・奉納者は八幡町の樋口勘一で，大正 14 年に奉納したことがわかる。「帰朝記念」という銘から現

地で実見した噴火の様子を描き，それを奉納したと考えられる。

50. 御調八幡宮図（写真）

昭和 2 年（1927）2 月　64.2 × 78㎝

御調八幡宮の社務所・鳥居を撮影した写真を貼る。画面内の銘から昭和 2 年に坂井原村の河元久太郎が奉納したことがわかる。

51. 神功皇后・武内宿禰図

昭和 3 年（1928）7 月　66.4 × 81.7㎝

NO.23・33・37・43 と同様に神功皇后と武内宿禰を題材とする。紙に背景等を描き，その上に布で作成した人物を貼り付けている。額の銘から昭和 3 年に八幡村の盛影ヨシが奉納したことがわかる。

52. 戦艦図　昭和 6 年（1931）1 月　46.8 × 97.8㎝

着色した背景上に戦艦の模型を取り付けている。煙突の数などから長門もしくは陸奥と推測されるが不詳である。額の銘から昭和 6 年に下兼操弥一が奉納したことがわかる。

53. 加藤清正虎退治図　不明　136.7 × 188.8㎝

加藤清正の虎退治の様子を描く。同様の画題は，NO.60 がある。奉納年・奉納者は不明である。

54. 不詳　不明　74.1 × 94.3㎝

剥落が激しく，画題は不詳である。また奉納年・奉納者についても不明である。

55. 加藤清正図　不明　113.8 × 192.7㎝

加藤清正が奮闘する様子を描く。画中の銘から樋口寅吉ら 13 名が奉納したことがわかるが，奉納年は不明である。

56. 業平東下の図（仮題）　不明　40.5 × 57.4㎝

剥落が激しく画題の特定は困難であるが，在原業平が京から東国へ下向する様子を描いた「業平東下の図」の一場面と推測される。奉納年・奉納者は不明で，額上が欠失している。

57. 風景画　不明　48 × 68.4㎝

風景を描いたガラス絵であるが，大部分が剥落している。奉納年・奉納者は不明である。

58. 武者闘争図　不明　116.6 × 160.8㎝

格闘する 2 人の武者を描く。画面右上の銘から和田軍□が奉納したことがわかる。奉納年は不明である。

59. 合戦図　不明　121.1 × 191.1㎝

奮闘する加藤清正を描いていると考えられる。奉納年・奉納者は不明である。

60. 加藤清正虎退治図　不明　111.7 × 187.8㎝

加藤清正の虎退治の様子を描く。画中左下の銘から石永仙四郎ら 13 名が奉納したことがわかるが，奉納年は不明である。額に金具を付けた唯一の事例で豪華である。

61. 伊勢神宮図　不明　50.5 × 71.5㎝

お伊勢参りの様子を描いたガラス絵である。奉納年・奉納者は不明であるが，ほかのガラス絵に比べて保存状態は良好である。

62. 天岩戸図　不明　95.5 × 164㎝

天岩戸より天照大神が姿を現した場面を描く。奉納年・奉納者は不明である。

63. 楠木正成・正行訣別図　不明　59.8 × 77㎝

楠木正成・正行父子の訣別を題材としたもので，同様の画題としては NO.16・20・46 がある。紙に背景等を描き，その上に布で作成した正成・正行を貼り付けている。画中の銘から八幡村野串の下中春代が作成し，奉納したことがわかる。奉納年は不明である。

64. 風景画　不明　72.3 × 103.7㎝

名勝を描いたガラス絵である。奉納年・奉納者は不明である。

Ⅳ．御調八幡宮の絵馬の特色

1．画　題

絵馬の画題は多岐に亘り，その分類は困難であるが，元来は生きた馬を奉納していたのが描かれた馬を奉納するように変化したという歴史を踏まえると「馬図」はその本流と言える。そのため遺品は少なくない。ところが，御調八幡宮において「馬図」は，一つも奉納されていない。これは後述するように御調八幡宮の絵馬が江戸時代後期以降，特に明治時代にその多数が奉納されたものであるため，絵馬奉納本来の意義が失われたためと考えられる。

御調八幡宮において多くみられた画題は，「武者絵」や「物語絵」に分類されるものである。特に「太閤記」（6 面）・「神功皇后・武内宿禰」（5 面）・「加藤清正」（4 面）・「楠木正成・正行」（4 面）が多かった。一方で全国的に事例の多い「熊谷直実・平敦盛」は，1 面しかなかった。なお奉納年でみてみると，「太閤記」・「加藤清正」をはじめとする「武者絵」の奉納は 1900 年までで，それ以降は一つも奉納されていない。また，「中国故事」を画題としたものは 3 面あるが，いずれも江戸時代に奉納されたものであり，明治時代以降には一つも奉納されていなかった。

2．作　者

64 面の絵馬の内，落款や銘などから作者が判明しているものは，NO.1・3・4・5・6・7・16・32・43・44・45・49・51・63 の 14 面である。この内の 6 面は，江戸時代に奉納されたものである。したがって江

戸時代に奉納された絵馬は，9 面中 6 面とその大部分の作者が判明していることになる。

上記の 14 面のなかで，作者の来歴等がある程度わかるのは，西村楠亭（NO.3）・宗眞斎信廣（NO.5）の 2 面のみである。朝岡（1904）によれば，西村楠亭は京都の人で名を予章といい，楠亭と号した。円山応挙の門人で，肉筆風景画を得意としたと言う。画集に「楠亭画譜」がある。なお楠亭作の絵馬には，原田（2003）によれば，文化 8 年（1811）に厳島神社（現在は千畳閣に懸けられている）に奉納された「檀渓を渡る玄徳の図」がある。また京都市文化課観光局文化財保護課（1979）によれば，安井金比羅宮に楠亭作の絵馬が 2 面（文化元年と年不明）報告されている。また安井金比羅には，楠亭の弟子（岩﨑甚兵衛）の絵馬（文化 3 年）も奉納されている。朝岡（1904）に所収されている文化 10 年（1813）頃の「畫師相撲見立」によれば，楠亭は前頭筆頭に番付されており，弟子を取るほどの名声を得た人物であったと考えられる。

次に宗眞斎信廣は，NO.5 の画中の落款によれば，狩野養川院惟信の門人である。狩野惟信は，木挽町家狩野派 7 代目の絵師である。したがってその門人である信廣は狩野派に属する絵師と考えられ，さらに京都，もしくはその近郊の住と推測される。信廣作の絵馬は，原田（2003）によれば，西村楠亭と同様に厳島神社（現在は千畳閣に懸けられている）に奉納された「玄徳・関羽・張飛の図」がある。

ところで NO.32 は，額に残る印と銘によれば明治 26 年（1893）に大阪の「稲垣魁春堂」が「應需」，すなわち依頼に応じて作成したものである。山口県教育委員会文化課編（1986，1990）には NO.32 同様の印を持つ「大倭天津日嗣図」（明治時代，日吉神社）と「日清戦争図」（明治 30 年，御堀神社）が報告されている。また山口県教育委員会文化課編（1986）には，「牛若丸と弁慶図」（明治時代，黒山八幡宮）に「稲垣」の印，「日本武尊図」（明治時代，日吉神社）に「稲垣写」の銘，「牛若丸図」（明治 17 年，広簾八幡宮）に「稲垣」の印，「凱旋東京二重橋御出図」（明治 39 年，平清水八幡宮）に「絵馬師」・「稲垣□兵衛」の銘を持つ絵馬が報告されている。さらに貝塚市教育委員会編（2005）にも「稲垣制」の銘を持つ絵馬が 2 面報告されている。また明治 39 年（1906）に発行された「大阪市街精密地図 舟場之図」（国際日本文化センター蔵）[2] に「稲垣絵馬商」とあり，稲垣性の絵馬師の存在，稲垣という名を冠した絵馬屋の存在を窺うことができる[3]。しかし「魁春堂」については，これが人名なのか店名なのかは判然としない。各地の絵馬調査を進めることで明らかになる可能性もあるが，それは別稿に譲りたい。

その他，□桂倆人（NO.1）・采真堂（NO.4）・黄渓（NO.6）・節島（NO.7）については，いずれも印を持つことから絵師と推察されるが，経歴等を明らかにはできなかった。なお，長□市□（NO.16）は大阪の住，また樋口勘一（NO.49）・末廣佐々野（NO.43）・下寺カズヨほか（NO.44）・市川イチ（NO.45）・盛影ヨシ（NO.51）・下中春代（NO.63）については，御調八幡宮の近辺に住む地元民と考えられる。

3．奉納年

今回調査を行った 64 面の絵馬は，額などに残る銘からその内の 52 面について奉納年が判明している。江戸時代 9 面，明治時代 38 面，大正時代 2 面，昭和戦前 3 面，不明 12 面であった。明治時代が 38 面と半数以上を占めて最も多く，江戸時代の 9 面がそれに続く。大正時代および昭和戦前の奉納は少ない。もとより明治時代と大正時代・昭和戦前では，年数（明治：45 年，大正：15 年，昭和戦前：20 年）が異なるので直接の比較はできないが，仮に大正および昭和戦前が明治時代と同様に 45 年あったとしても 38 面には及ばないと推測される。また年代が不明の絵馬が 12 面あるが，これらがすべて大正時代や昭和戦前に奉納されたもので，明治時代に奉納されたものが 1 面もないとは考えにくい。したがって御調八幡宮においては，明治時代に最も多く奉納されていたとしてよいであろう[4]。

なお，明治時代の 38 面に着目してみると，1900 年までに奉納されたものが 29 面あり，特に 1880 年から 1900 年までの 20 年間に 21 面が奉納されている。したがって御調八幡宮においては，19 世紀より奉納が始まり，その最盛期は明治時代，特に 1880 年から 1900 年の 20 年間であったと考えられる[5]。その後 1900 年代になると次第にその奉納数は減少していき，絵馬奉納は終息に向かっていく傾向がみられた[6]。

4．形式・規模

64 面はいずれも額装され扁額形式となっていた。ただしその形状に関しては，6 項目に類別できた。すなわち，板絵（43 面）・紙絵（1 面）・布貼付（5 面）・ガラス絵（8 面）・写真貼付（2 面）・実物貼付（5 面）である。この内，最も事例が多かったのは板絵であり，43 面と大部分を占め，かつ各時代を通じてあった。紙絵は，キラウエ火山噴火の様子を描いた NO.49 がある。布貼付は明治 23 年（1890）の NO.27 が初出である。計 5 面あり，NO.27 以外は女性の奉納による

もの，さらに1900年代以降に奉納されているということが特徴として挙げられる。ガラス絵は明治25年（1892）のNO.30が初出で，布貼付と同時期に現れている。計8面あり，いずれも風景を描いたものであった。なお板絵は最も数が多いものの，1900年代になるとその事例は減少していき，布貼付・ガラス絵が増えている傾向がみられた。

次に絵馬の規模について記しておく。64面の絵馬の内，最も規模が大きいのはNO.3（132.5 × 212.8㎝）である。またNO.3の横幅（212.8㎝）は，64面中最長であった。このほか，横幅が200㎝を超えるものは，4面あった。また200㎝に迫るものも少なくなく，比較的に大規模な絵馬が多いと言えよう。なお，御調八幡宮の絵馬はほとんどが横長であり，縦長とするのは江戸時代に奉納された4面のみで，明治時代以降は一つも奉納されていない。

5．後世の着彩

御調八幡宮の絵馬の着彩に注目すると，基本的に人物の顔を中心とした肌の表現には必ず白色[7]による下地塗り[8]を施し，その他着衣や背景描写は板に直接色をのせる形で行われている。用いられた色の種類について概観すると，白色による下地塗り，青色，赤褐色が現状として目立つ[9]ことが指摘できる。長年の風雨による剥落を考慮に入れても，これらの色は画面の大部分を占めていると言えよう。そしてこれらの色は，例えばNO.10（明治4年）とNO.35（明治28年）の青色のように塗料として同質でありながらも，制作年代が大きく異なる作品に点在している。しかもこの青色は当初ではなく，後世に着彩されたものであった。このことから絵馬が奉納されてから一定期間を経たある時期に修理されて，着彩が施された可能性が示唆できよう。この着彩事業の実態がいかなるものであったかを示す史料は残念ながら存在しない。しかし，例えば青色は単に一色なのではなく，白群，露草色，濃紺といった少なくとも三種類の使い分けが明確[10]である。このことから着彩担当者または指導者の拘りが窺えるとともに，在地の結縁者の濃厚なつながりや，地域として絵馬を永続的に保護していこうとした姿勢が現存する絵馬群から推察される[11]。

Ⅴ．おわりに

本稿では，御調八幡宮に昭和戦前までに奉納された絵馬64面について，画題・作者・奉納年などについて，調査結果をもとに記した。その結果，画題は多様であったが「武者絵」･「物語絵」が多数であったこと，作者については，西村楠亭のように名の知れた画家の作品があること，大阪の絵馬屋で購入したものが含まれることなどが明らかとなった。また額等に残る銘から奉納年が判明しているものが52面と約8割もあり，これらから奉納の最盛期が明治時代，特に1880年から1900年の20年間であり，1900年以降は次第に減少していることが判明した。

なお，64面という数は厳島神社の200面は別格として，神田神社（呉市，呉市有形文化財）の約60面と並び県内有数の所蔵数と考えられる。後世の着彩，すなわち修理が行われていることも確認でき，地域として絵馬を保護しようとした姿勢を窺え，奉納数の多さと考え合わせると地域の民衆の信仰心の厚さを示していると考えられる。

【謝辞】

御調八幡宮の桑原國雄宮司をはじめとする関係者の皆様には，調査に際して格別の便宜を図っていただきました。また，三原市教育委員会の松田英之氏・和氣康人氏，広島大学大学院文学研究科大学院生の藤田慧氏，広島大学文学部学部生の村岡咲季氏には，調査にご助力いただきました。記して感謝いたします。

【註】

1）戦後や近年に奉納された絵馬も数点存在する。

2）国際日本文化センター所蔵地図データベース http://tois.nichibun.ac.jp/chizu/santoshi_1196.html（平成29年8月25日閲覧）

3）地図資料編纂会編（1987）所収の「大阪市商工地図（大正12年12月）には記載がなく，この頃までに廃業していたと考えられる。

4）山口県教育委員会文化課（1986）によれば，山口県下で実施された絵馬調査において明治時代に奉納された絵馬が最も多く，そのため絵馬奉納の流行の頂点が明治時代にあったのではないかという指摘がされている。

5）19世紀以前にも奉納されていたと考えられるが，それを確認できる資料は残っていない。また，1880年から1900年の期間に奉納数が多いことの理由は，現時点では不明である。今後，広島県内の絵馬調査を進めるなどして，別稿において改めて考察したい。

6）原田（2003）によれば，厳島神社においても1900年以降は奉納数が減少している。

7）以下，色の名称に関しては，「～色」の表記に統一した。調査にて確認できた着彩は，明治時代以降の補彩である可能性があるだけでなく，日本古来の岩絵具のような質のものとは言い難いと推測されるため，群青や緑青といった名

称の使用は避けることとした。

8）制作当初部分には，細やかに輝く粒子が確認できる。成分の特定には至っていないが，酸化して黒ずんでいる様子はないため銀ではない。

9）墨による黒色も画面中に多く残っているが，当初か後世の塗り重ねかは判断できなかった。

10）三種類の青色が同時に施されたか，異時に施されたかは判断不能である。

11）明治 13 年（1880）の NO.7 のように額の修理を行った事例もある。

【参考文献】

朝岡興禎（1904）:『古畫備考（複刻版)』思文閣.

岩井宏実（1974）:『ものと人間の文化史 12 絵馬』法政大学出版局.

小田榮一・影山純夫（2008）:『茶掛けの画題を知る事典』河原書店.

貝塚市教育委員会編（2005）:『貝塚市内の神社と絵馬』貝塚市教育委員会.

河田貞編（1974）:『日本の美術 92 絵馬』至文堂.

京都市文化課観光局文化財保護課編（1979）:『京都の絵馬』京都市文化課観光局文化財保護課 .

呉市海事歴史科学館編（2005）:『日本海軍艦艇写真集　戦艦・巡洋戦艦』ダイヤモンド社.

桑原末彦（1972）: 御調八幡宮の歴史．広島県文化財ニュース，53，5-6.

澤井常四郎（1921）:『御調八幡宮と八幡荘』宮永活版印刷所.

千歳園藤彦（1832）:『厳島絵馬鑑』.

地図資料編纂会編（1987）:『日本近代都市変遷地図集成』柏書房.

原田佳子（2003）:『厳島平成絵馬鑑』厳島平成絵馬鑑刊行会.

福井県立博物館編（1993）:『特別展 絵馬 EMA GALLERY』福井県立博物館.

福岡県博物館協議会・福岡県立美術館編（1998）:『福岡県の絵馬　第二集』福岡県博物館協議会・福岡県美術館.

御調郡誌編纂部編（1925）:『御調郡誌』御調郡教育委員会.

八幡製鉄株式会社八幡製鉄所（1950）:『八幡製鐵所五十年誌』八幡製鉄株式会社八幡製鉄所.

山口県教育委員会文化課編（1986）:『山口県の絵馬』山口県教育委員会.

山口県教育委員会文化課編（1990）:『続山口県の絵馬』山口県教育委員会.

吉田町歴史民俗資料館編（1995）:『高田郡の絵馬展』吉田町歴史民俗資料館.

（2017 年 8 月 31 日受付）
（2017 年 12 月 7 日受理）

1. 桃園の契り図

2. 伯顔図

3. 競馬図

4. 関羽図

5. 西王母図

6. 鬼子母神図（仮題）

7. 山姥と金太郎図

8. 奉納額（実物欠失）

9. 武者闘争図

10. 心に錠図

11. 武者闘争図

12. 芝居図

13. 熊谷直実と平敦盛図

14. 太閤記図

15.「伽羅先代萩」芝居図

16. 楠木正成・正行訣別図

17. 芝居図

18. 太閤記図

19. 太閤記図

20. 楠木正成・正行訣別図

御調八幡宮調査絵馬写真
筆者撮影

21.「一谷嫩軍記」芝居図

22. 巴御前図

23. 神功皇后・武内宿禰図

24. 芝居図

25. 梶原景季奮戦図

26. 川中島合戦図

27. 富士に桜図（仮題）

28. 太閤記図

29. 風景画

30.「山崎合戦」太閤記図

31. 奉納額（実物欠失）

32.「富士巻き狩り」曽我物語図

33. 神功皇后・武内宿禰図

34. 風景図

35. 太閤記図

36. 加藤清正図

37. 神功皇后・武内宿禰図

38. 日清戦争図

39. 神社境内図

40. 不明

41. 不明

42. 巡洋艦「千代田」乗組員（写真）

43. 神功皇后・武内宿禰図

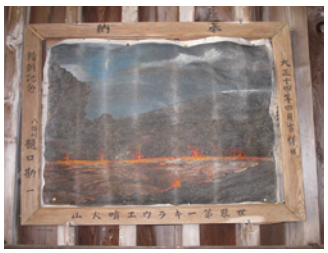
44. 昭憲皇太后図

45. 児島高徳図

46. 楠木正成・正行訣別図

47. 遠州浜松図

48. 風景画


49. キラウエア火山噴火図

50. 御調八幡宮図（写真）

51. 神功皇后・武内宿禰図

52. 戦艦図

53. 加藤清正虎退治図

54. 不詳

55. 加藤清正図

56. 業平東下の図（仮題）

57. 風景画

58. 武者闘争図

59. 合戦図

60. 加藤清正虎退治図

61. 伊勢神宮図

62. 天岩戸図

63. 楠木正成・正行訣別図

64. 風景画

44	明治四十年（一九〇七）三月	昭憲皇太后図	下寺カズヨほか	紙本着色・布貼付	五五・九×七七・二	（右）明治四十年三月吉日 （左）御調郡坂井原村裁縫生 （下）下寺カズヨ　上神田アイ　寺田イサヨ　池田シズノ　多津見イサヨ
45	明治四十二年（一九〇九）二月	児島高徳図	市川イチ	市川イチ	紙本着色・布貼付	五三・七×七〇・七	（内）献納　明治四十二年二月一日　八幡村宮内　市川イチ女
46	明治	楠木正成・正行訣別図			板絵着色	五四・六×七八・一	（上）奉□ （右）明治□□□□□
47	明治	遠州濱松図			ガラス絵	七三・三×一〇三・五	（上）奉　遠州濱松之景　獻 （右）明治 （左）備後國御調郡坂井原村
48	大正二年（一九一三）五月	風景画		迫庄一ほか	板絵着色	六八・五×九八	（上）奉納 （右）大正二年五月 （下）八幡村垣内　迫庄一　□□□□　迫都一　八幡村美土　中山梅太郎　今津野□□　中西□吉　□□□□　迫寅一
49	大正十四年（一九二五）四月	キラウエア火山噴火図	樋口勘一	樋口勘一	紙本着色	八四・五×一一五・五	（上）奉納 （右）大正十四年四月吉祥日 （左）歸朝記念　八幡村　樋口勘一 （下）世界第一キラウエ噴火山
50	昭和二年（一九二七）二月	御調八幡宮図（写真）		河元久太郎	写真貼付	六四・二×七八	（内）奉納　昭和五年二月二十一日　慶応参年生本年六拾壹歳之記念　御調郡坂井原村　河元久太郎
51	昭和三年（一九二八）七月	神功皇后・武内宿禰図	盛影ヨシ	盛影ヨシ	紙本着色・布貼付	六六・四×八一・七	（上）奉納 （右）昭和三年七月吉日 （左）御調郡八幡村大字垣内盛影ヨシ
52	昭和六年（一九三一）一月	戦艦図		下兼操弥一	実物貼付	四六・八×九七・八	（上）奉納 （右）昭和六年一月吉日 （左）下兼操弥一
53	不明	加藤清正虎退治図			板絵着色	一三六・七×一八八・八	（上）奉縣
54	不明	不詳			板絵着色	七四・一×九四・三	
55	不明	加藤清正図		樋口寅吉ほか	板絵着色	一一三・八×一九二・七	（内）樋口寅吉　南貞吉　市川勝平　仁井山□太郎　樋口熊太郎　時永清作　鋒平ヲヨシ　仁井山トラ　谷尻コタヨ　陰□ツテ　岡本タメ　樋口タツ　時守キク
56	不明	業平東下の図（仮題）			板絵着色	四〇・五×五七・四	
57	不明	風景画			ガラス絵	四八×六八・四	
58	不明	武者闘争図		和田軍□	板絵着色	一一六・六×一六〇・八	（内）和田軍□
59	不明	合戦図			板絵着色	一二一・一×一九一・一	
60	不明	加藤清正虎退治図		石永仙四郎ほか	板絵着色	一一一・七×一八七・八	（内）高田□太郎　石永仙四郎　※全十三名・他判読不能
61	不明	伊勢神宮図			ガラス絵	五〇・五×七一・五	
62	不明	天岩戸図			板絵着色	九五・五×一六四	
63	不明	楠木正成・正行訣別図	下中春代	下中春代	紙本着色・布貼付	五九・八×七七	（内）八幡村野串　下中春代
64	不明	風景画			ガラス絵	七二・三×一〇三・七	

32	明治二十六年（一八九三）四月	「富士巻き狩り」曽我物語図	稲垣魁春堂	加藤喜輔ほか	板絵着色	一一三・六×二〇六・一
33	明治二十七年（一八九四）三月	神功皇后・武内宿禰図		□□□郎ほか	板絵着色	七七・五×一二九
34	明治二十七年（一八九四）四月	風景画			ガラス絵	七三・六×一〇五
35	明治二十八年（一八九五）三月	太閤記図		岡田尚平ほか	板絵着色	九六・七×一五八・六
36	明治二十九年（一八九六）四月	加藤清正図		時守トキほか	板絵着色	四〇・五×五二・八
37	明治二十九年（一八九六）四月	神功皇后・武内宿禰図		河□□□ほか	板絵着色	七四・四×一〇〇・一
38	明治三十年（一八九七）三月	日清戦争図		積善小助ほか	板絵着色	七〇・五×九七・五
39	明治三十三年（一九〇〇）三月	神社境内図		平川市平ほか	ガラス絵	六〇×八五・三
40	明治三十五年（一九〇二）	不明		西田愛三郎ほか	ガラス絵	六〇×八五
41	明治三十七年（一九〇四）十一月	不明		免田藤四郎ほか	不明	四〇×四七・二
42	明治三十八年（一九〇五）十二月	巡洋艦「千代田」乗組員（写真）		佐伯忠一	写真貼付	四四・五×五一
43	明治三十九年（一九〇六）四月	神功皇后・武内宿禰図	末廣佐々野	末廣佐々野	紙本着色・布貼付	六六・七×九七

32
（上）奉懸
（右）大字本荘
（左）明治廿有六年四月吉日
（下）加藤喜輔　大田敬一　河野武一　田口勘四朗
大田徳松　大田孫四郎　賀川市松　本間亥三郎
末木末介　大坪友四朗　折鶴品平　横佃典作
郷伍助　福田政介　徳満貞太朗　大田イワメ
大田キクノ　沖森ウタ　西原□□　中西コヨシ
〆貳拾人　外五人

33
（上）奉懸
（右）御調郡八幡村字簗
（左）明治二十七歳三月吉日
（下）□□□郎　□□□□　□□□□

34
（左）明治二十七年□□四月

35
（上）奉献
（右）備後國御調郡坂井原村
（左）明治二十八季三月吉日
（下）岡田尚平　上網□市　□□□　□□□　岡作太郎
□□馬□　□□□□　□□□□
□田□吉　□□□□平

36
（上）奉献
（右）明治二十九年四月吉祥日
（左）八幡村字宮内　時守トキ　仁井山ウメ

37
（上）奉懸
（右）八幡村字本庄
（左）明治貳拾九年四月吉日
（下）河□□□　櫻□□　□□□　□□□

38
（上）奉献
（右）御調郡八幡村大字簗
（左）明治三拾年戌三月吉日
（下）積善小助　久保嘉吉

39
（別）奉献　明治参拾参年　□三月四日　御調郡八幡□□
□□□　平川市平　花□清次　河原□市

40
（別）奉納　御調郡八幡村字簗　西田愛三郎　飛谷庄市
沖ひで　沖□はる　下西きく　□林とも　〆六人
明治三拾五年　□貳月吉日

41
（上）奉懸
（右）工務部　職工長　免田藤四郎　甲積任　上中梅太郎
（左）明治参拾七年拾壱月
（下）大日本農商務省所官製鐵所溶鉱炉

42
（上）献納
（右）明治参拾八稔
（左）拾貳月拾五日
（下）海軍水兵　佐伯忠一

43
（上）奉納
（右）明治参拾九年四月吉日　三原裁縫教授所生徒
（左）御調郡八幡村字垣内　末廣佐々野　卯年

21 明治十五年（一八八二）四月 「一谷嫩軍記」芝居図 河野調平ほか 板絵着色 七二・二×九七・五
（上）奉献御廣前
（右）御調郡本庄村　河野調平　甲光栄太郎
（左）明治十五年第四月吉日

22 明治十五年（一八八二）五月 巴御前図 沢井洵 板絵着色 六三・二×八二・四
（上）奉献
（右）明治十五年五月廿七日
（左）□□□□□
（裏）明治十□五年五月廿五大坂御堂前ニ於テ求之
□林村　沢井洵□□

23 明治二十一年（一八八八）四月 神功皇后・武内宿禰図 沖コメほか 板絵着色 五九×八一
（上）奉□進
（右）明治二十一年垣内村　仁口□□
（左）子四月吉日　簑村東マ□ヨ　□□ヨシ　沖コメ

24 明治二十二年（一八八九）三月 芝居図 阿賀善吉ほか 板絵着色 六五・七×一二六・八
（上）備後国御調郡野串村八幡之庄
（右）明治二十二年　阿賀善吉　西□貞介
（左）丑三月二十一日　東松太郎　植森辰治

25 三月（明治二十二年三月以前） 梶原景季奮戦図 □尻石太郎ほか 板絵着色 六八・二×一二七・一
（上）奉献□廣前
（右）御調郡野串村
（左）三月□□日
（下）□□□郎　□□□□　□尻石太郎　出□常太郎
南□助　〆五人組

26 （明治二十二年三月以前） 川中島合戦図 東宇太郎ほか 板絵着色 六九・八×一二六・三
（上）□□廣前
（右）明治□十年　御調郡野串村　東宇太朗　植森作助

27 明治二十三年（一八九〇）四月 富士に桜図（仮題） 平房吉ほか 板絵着色・布貼付 七二・四×一〇四・二
（上）奉献
（右）備後国御調郡坂井原村
（左）明治貳拾参年四月廿一日
（下）平房吉　豊田末太郎　山崎増太郎　堂迫栄蔵
崎原小太郎　豊□常松　扇谷彌吉　新田庄平
□□□□太郎

28 明治二十三年（一八九〇）四月 太閤記図 瀬□□郎ほか 板絵着色 一一八・五×一九〇・五
（上）奉献
（右）御調郡八幡村
（左）明治二十三年四月十三日
（下）瀬□□郎　□□□平　□□□郎　□□□□
□□□□　□□□□　□□□□
□□□□　□□□□
〆八人組

29 明治二十五年（一八九二）三月 風景画 稲井熊太郎ほか ガラス絵 四七・七×六七・六
（別）奉献　御調郡八幡村字美生　明治廿五年辰三月吉日
稲井熊太郎　舛谷新四郎　早九保太郎　舛谷源平

30 明治二十五年（一八九二）三月 「山崎合戦」太閤記図 安藤山平ほか 板絵着色 八九・三×一八七・三
（内）太閤記山崎大合戦図
（上）奉縣
（右）八幡村大字本荘
（左）明治二十有五年辰三月吉日
（下）安藤山平　加藤ワサ　安藤ウタ　清水イト　後キミ
山中村　門田卯七　〆　次第不同

31 明治二十五年（一八九二）七月 奉納額（実物欠失） 不明 四四・二×三九・四
（上）捧納
（右）御調郡今津堅村字津蟹
（左）明治二十有五年七月
（下）□□□□□□□

12 明治五年（一八七二）
芝居図
嘉太郎ほか
板絵着色
七三・八×九八
（上）奉懸御廣前
（右）明治五年　福井村
（下）嘉太郎　歌助　孝作　於ちな　於琴　於きた　於登□
於のぶ　於まさ

13 明治七年（一八七四）三月
熊谷直実と平敦盛図
槙田久次郎ほか
板絵着色
一二六・二×二〇四
（上）奉納
（右）明治七年　御調郡津蟹邑
（左）戌　三月吉辰　御調郡　福井村　高橋助□郎
（下）槙田久次郎　前原□郎　槙田為四郎　西牧太郎
中西保太郎　向井勇助　藤原韋太郎　柏原重太郎
畝田伍作　大元友四郎　岡田喜太郎　宦幾太郎
槙田おいわ　槙田□の　前原おとら　〆拾五人

14 明治十年（一八七七）四月
太閤記図
河井信太郎ほか
板絵着色
一三五・七×一九八・五
（右）本庄村
（左）明治十年四月吉日
（下）河井信太郎　櫻弥太郎　加藤□□　佐藤作太郎
春□□□郎　金□□郎　根井□太郎　□□□□
□□□□　棟□□郎　坂本□右衛門　□□□□
奥□平　□久右衛門　□□□□　□ちよ　□□□□
□□はる　□□ちよ　□□□

15 明治十一年（一八七八）
「伽羅先代萩」芝居図
市川志馬之助ほか
板絵着色
七八・七×一三四
（上）奉献大廣前
（右）明治十一年六小區宮内村　市川志馬之助
市川亀治郎
（左）四月吉辰日同小區野串村　檜山常太郎　中西直太郎
梶田勇助

16 明治十三年（一八八〇）四月
楠木正成・正行訣別図　長□市□
中曽貞市ほか
板絵着色
一三九・四×二〇〇・四
（内）御堂筋□□町□□長□市□写
（上）奉献
（右）備後国御調郡八幡之庄阪井原村
（左）明治十三年四月二十四日
（下）中曽貞市　田上金七　平九市　平田春平　土網善七
中満重吉　野□□七　入江九助
世羅郡福田村向井小二郎

17 明治十三年（一八八〇）四月
芝居図
西門田文助ほか
板絵着色
七四・三×九八
（右）明治十三年　御調郡福井邑
（左）辰四月吉日　西門田文助　上兼操清助

18 明治十四年（一八八一）三月
太閤記図
入浦本四郎ほか
板絵着色
一四二・七×一九四
（上）奉献
（右）御調郡阪井原村
（左）明治十四年巳三月日
（下）入浦本四郎　池田綱吉　管幾太郎　田尾喜代助
槙田秀吉　西幸六　西奥長作　阪宝佐吉　中曽太作
飯田孫三郎　坂本常平　坂本友助　〆拾弐名

19 明治十五年（一八八二）四月
太閤記図
池田□太郎ほか
板絵着色
一一六・七×一八六
（上）奉御寶前
（右）明治十五年　御調郡植野村
（左）午四月吉□□
（下）池田□太郎　※全十三名・他判読不能

20 明治十五年（一八八二）四月
楠木正成・正行訣別図
板絵着色
九四・三×一三一・五
（内）□□□□　□□□□　部□□□　□□□
（上）奉縣
（右）津蟹村
（左）明治十五年□四月二十日□

表1　御調八幡宮調査絵馬一覧

No.	年紀	画題	作者	奉納者	材質形状	寸法（縦×横）	銘など　※（内）は画面内、（上）などは額の上下左右を表す。
1	寛政十二年（一八〇〇）七月	桃園の契り図	□桂倆人	田中満貞	板絵着色	一六六・一×八二・七	（内）□桂倆人寫（印） （右）奉懸神寶前諸願成就如意満足 （左）寛政十二歳次庚申秋七月吉祥日　願主田中満貞肅拝
2	享和三年（一八〇三）一月	伯顔図		得能氏	板絵着色	一六七・六×九〇・五	（内）奉獻 （右）享和三癸亥年 （左）正月吉祥日　得能氏
3	文化元年（一八〇四）九月	競馬図	西村楠亭	十箇村氏子	板絵着色	一三二・五×二一二・八	（内）平安楠亭寫（印） （上）奉獻御神前 （右）文化紀元龍次甲子秋九月吉祥日 （左）願主十箇村産子中
4	文化十五年（一八一八）四月	関羽図	采真堂	十箇村氏子	板絵着色	一二三・七×二一一・八	（内）采真堂圖（印） （上）奉懸御寶前 （右）文化十五年戊寅夏四月吉祥日 （左）願主十箇村産子中
5	文政十一年（一八二八）一月	西王母図	宗眞斎信廣	田中満之	板絵着色	一六一・六×八一	（内）東部狩野養川院惟信門人　宗眞斎信廣寫（印） （右）旹文政十一年歳次戊子正月吉祥日 （左）奉獻珍廣前　田中満之拝誓首
6	文政十一年（一八二八）	鬼子母神図（仮題）	黄渓	亀助ほか	板絵着色	一三一・四×六五	（内）奉□　黄渓寫（印） （右）文政拾一戊子歳孟夏 （左）津蟹邑　亀助　作次　芳蔵　倉次　京蔵　麻蔵　吟蔵
7	天保十四年（一八四三）四月	山姥と金太郎図	節島	田中満之ほか	板絵着色	一六一×八一	（内）節島（印） （右）奉懸　御寶前 （左）天保十四年歳□癸卯四月吉旦田中保右衛門満之室琴息和十郎
8	天保十四年（一八四三）	奉納額		唯介	板墨書・実物貼付	四九・八×七八・二	（内）奉懸　御調郡八幡之庄　鹿一對　福井村　唯介 （右）于時天保十四歳 （左）癸卯孟春吉祥日
9	安政七年（一八六〇）	武者闘争図		猪八郎ほか	板絵着色	一一七×一九二・一	（内）安政七年　猪八郎　林三郎　慎平　新作　幸作 伴右衛門　勝平　□□　□□郎　新五郎 備後国御調郡□□□□□□
10	明治四年（一八七一）	心に錠図		きく□ほか	板絵着色	五八・五×七八・八	（右）明治四年　御調郡八幡庄本庄 （左）辛未三月吉日 （下）きく□　□□
11	明治五年（一八七二）三月	武者闘争図		俊平ほか	板絵着色	一三一・八×一九四・八	（上）奉寄進御宝前 （右）八幡之庄別宮本荘村 （左）于時　明治五壬申歳三月吉辰日 （下）俊平　徳太郎　石太郎　□四郎　作太郎　長蔵 松平　小太郎　喜平　浅助　初太郎　於□□ 於□之　於志□　於□乃　於志乃　於きの 〆拾七人組